

NEW DENTAL SALON

お知らせ

新年懇親会のお知らせ

トピック

栃木市保健福祉部との協議会

業者からの耳より情報

株式会社 ハギノヤ

これからよろしく

松本 一真 先生

連載紀行 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔 先生

連載 下都賀歯科医師会側面史

坂本 正雄 先生

編集後記

この度の台風 19 号での被災状況を調査した所、当歯科医師会で 23 件の歯科医院が被害に遭われました。被災された会員の先生にはお見舞い申し上げますとともに、1 日でも早い復旧を心より祈念しております。

広報担当理事 清野栄治

ネット配信広報誌第 9 号 2019 年秋冬

お知らせ

下都賀歯科医師会新年懇親会は 1 月 8 日（水）栃木グランドホテルにて午後 7 時より開催されます。多くのご参加をお願いいたします。

第 8 回栃木市保健福祉部との協議会

令和元年 11 月 12 日（火）栃木グランドホテルに於いて標記協議会が開催された。本協議会は何かに関わりのある行政と「顔の見える関係で意見交換をしよう！」という目的で平成 25 年から始まり、今回で第 8 回目の開催となった。

またこの日は台風 19 号からちょうど 1 ヶ月が経過した日であり、いまだ避難所生活を余儀なくされている被災者が市内で約 100 名いる中で行われた。栃木市は県内で最も家屋の床上浸水被害が多かった市であり、その甚大な被災状況から協議会の中止も検討されたが、この協議会日程は当歯科医師会が約 3 ヶ月前に市長との予約をしたこと、さらにこの日を延期すると次の市長日程が都合つかなくなることを栃木市が考慮し、大川秀子市長以下、職員全員が作業服を着用しての異例の開催となった。下都賀歯科医師会員の中にも多くの被災者がいることから、市長の挨拶の中でも深くお見舞いの言葉が述べられた。さて一問一答形式で行われた協議内容の概略は以下の通りである。

1. オーラルフレイル予防歯科健診に関する要望

口の機能低下（オーラルフレイル）による滑舌低下、食べこぼし、むせ等は、高齢者の生活の質を著しく低下させる。つまり口腔機能の衰えは食欲低下、体重減少、全身の機能低下（サルコペニアや低栄養）へと進み、要介護状態へと繋がる可能性がある。

現在栃木市では 76 歳に達した人を対象に「後期

高齢者医療歯科健康調査」を実施しているが、さらに早期のオーラルフレイル対策が必要不可欠と思慮され、「オーラルフレイル予防歯科健診」の導入を 要望したい。



<栃木市の回答>

フレイル対策は75歳では遅い、なるべく早い時期、具体的には65歳頃からこの対策に当たらないといけないという歯科医師会の認識は理解した。既に鹿沼市で行われている「65歳オーラルフレイル予防歯科健診」を参考に今後、栃木市においても導入の検討を前向きに考えていきたい。

2. 出産後歯科健診に関する要望

栃木市における「歯及び口腔の健康づくり推進条例」の基本的施策では、何よりも第1号に「妊産婦に対する歯科保健対策」を掲げ、妊婦歯科健診が行われてはいるが、妊婦の時期に歯周病をはじめ要処置の疾患が発見されても、X線、治療薬物等の胎児の影響への不安から、歯科治療は応急処置のみを希望され、その応急処置のまま放置されるケースが多くみられる。さらに産後は家事や育児、さらに復職への準備等、時間的制約から歯科受診に時間を割くことが困難となるため、出産後の母親の歯科健診や口腔内保健指導などの支援には、家族、行政、歯科医師等の周囲のサポートが必要である。そこで妊婦歯科健診は、妊娠中1回、さらに出産後1回の計2回の歯科健診の導入を要望したい。

<栃木市の回答>

今年度から妊娠期間に受診しなかった方は出産後1年未満までは、この無料妊婦歯科健診を受診できるよう受診機関を拡大したが、今年度の実績をみると妊婦時期の受診率は約35%と前年度とやや横ばいであり、さらに産婦の受診率は非常に低かった。ゆえに当面は現状の制度のまま様子を見ていきたいと考える。今後は妊産婦にアンケート等を取りながら、産婦歯科健診の要望が多くあれば将来的には検討していきたい。

3. 訪問口腔ケア健診システムに関する要望

高齢化が先行する栃木市において、今後ますます外出困難な在宅高齢者、在宅障害者は増加すると思われるが、現行の歯周病検診や口腔がん検診も、在宅では受診することができない。実はこれら検診の受診時に市民はお口や入れ歯のいろいろな相談ができ、歯科医師側も有病者へ口腔ケアの重要性や知識を伝える機会となっている。そこで無料訪問歯科健診の導入を要望したい。

<栃木市の回答>

「新たな在宅訪問健診」というシステムをご提示いただいたことにまず感謝申し上げる。ただし栃木市としては「歯科でも訪問診療が行える」と



いうところの市民の認知度が未だ低いという認識がある。まずは「歯科でも訪問歯科が行える」という初期周知に力を入れ、広報等を通して市民に対してアピールしていきたい。

4. 災害・有事の際の具体的な取り決めに関する要望

2016年に栃木市と災害時の協定を締結したが、実際に発災した時に、どう動いていくかの細則は決められていない。特に避難所の被災者生活に「口腔ケア」は必須となるが、行政と歯科医師会が連携して準備・活動する具体的なマニュアルが存在しないため、今後は定期的に協議会を開催し、即座に支援できる体制を整備・構築していきたい。

<栃木市の回答>

市としてまさに今、台風19号の災害対応、被災者支援にあたっているところである。この取り決めに関しては市としても重要案件であるという認識は貴会と同様で、今後は貴会をはじめ医師会、薬剤師会、柔道整復士会等とも連携をとってマニュアル作りを検討したい。さらに災害の大きさによっても対応は変わること、また災害の初期、中期、長期とそれぞれの時期で支援方法が変わると思うので、早期にその詳細を煮詰めていきたいと考慮する。こちらからも歯科医師会の協力をぜひお願いしたい。

今回も行政との連携強化に喧々囂々と議論を交わし、非常に有意義な協議会となった。最後に諸々の災害対応に忙しい中、協議会の時間を確保していただいた市長はじめ栃木市保健福祉部職員に感謝を申し上げるとともに、被災した市民が1日でも早く元の生活に戻れるよう祈念するばかりである。



業者からの耳より情報

株式会社 ハギノヤ

令和と言う新時代を迎え、先生方におかれましてはますますご健勝の事とお慶び申し上げます。

昨今、歯科医療においてもデジタル化が進み、口腔内スキャナーを用いて患者様の口腔内の印象を 3D 画像にて印象採得する方法が導入されてきています。口腔内スキャナーの使用のメリットとしては、印象材による歪みの問題がないため精度が高いこと、素早く印象採得ができること、患者の負担が少なく快適性が高いこと、視覚に訴える 3D 画像をすぐに患者に見せられるため、治療の説明がしやすいことなどがあげられます。

そこで今回弊社からは 3shape 社で発売している口腔内スキャナー TRIOS についてご紹介させていただきます。

3shape 社は 2000 年にデンマークのコペンハーゲンに設立された会社で、約 20 年で急速な成長を遂げ、今日では世界 100 カ国以上のお客様へサービスを提供しているグローバル企業です。日本国内においてはラボ向けスキャナーの認知度が高く、CAD/CAM システムを導入している歯科技工所の中では一番使用されています。

TRIOS の特長としてはスキャン精度が高く、スキャンスピードが最も速いことが上げられます。また、只単にスキャンするだけでなく、リアルカラーでの再現やシェードの測定、対合歯とのクリアランスを数値確認できたりと患者様とのコミュニケーションツールとしても活用できる機能が搭載されています。

加えて、ソフトウェアも充実しており、TRIOS Smile Design：患者様の顔貌写真を使い治療後の前歯部を顔貌写真にてシミュレーション提案、TRIOS Patient Specific Motion：咬合位を記録し咬合接触の確認、TRIOS Patient Monitoring：経時的に口腔内の変化を確認、患者様に経過観察を視覚的に伝えることが可能です。

最近では、一般補綴に加え、あらたに矯正およびインプラント、サージカルガイドの作製まで適用範囲が広がり、益々期待が持てる口腔内スキャナーです。

注) 現在はインプラント、矯正のソフトウェアが日本未発売のため使用できません。

TRIOS はオープンシステムを採用しており、あらゆるメーカーの周辺機器（ミリングマシンなど）へ対応できるのも大きな利点です。

最後に最近発売された **TRIOS3 Basic** をご紹介いたします。
従来モデルと同じ機能を搭載しておりますが低コスト（約半額）とお求め安いエントリーモデルです。※上記ソフトウェアが未搭載（追加購入化）大変お奨めのモデルになりますので口腔内スキャナーの導入をご検討していらっしゃいましたら是非、選択肢のひとつとしてお考えください。

尚、弊社ハギノヤにてデモンストレーションを承りますのでお気軽にお申し付け下さい。

詳しいお問合せ先

株式会社 ハギノヤ

0282-22-1466



歯科総合商社

株式会社ハギノヤ

これからよろしく

松本 一真

入会后、約2年が経過して

2017年10月に下都賀歯科医師会に入会させていただきました、松本一真と申します。

今回は、このような投稿の機会をいただきましてありがとうございます。昔から文章を書くのは苦手ですが、目を通していただければ幸いです。

矯正歯科治療を受けたことがきっかけで矯正歯科医を志したのは高校生の時でした、栃木高等学校から徳島大学、その後徳島大学大学院へと進学し、歯科矯正学を学びました。

大学院時代はちょうど歯科矯正用アンカースクリューが普及し始めたころで、今の時代では考えられませんが、大学院に入りたての時期からアンカースクリューの埋入も数多く経験させてもらいました。幸いにも指導医がアンカースクリューで世界的にも有名な先生であったため、当時はとても貴重な経験をさせてもらっていたと思います。

その後は矯正歯科専門医院の勤務医を経験し、同時に一般歯科医院での矯正歯科治療や美容外科クリニックの矯正歯科部長をさせてもらいながら、膨大な数の症例を治療させてもらいました。勤務先の院長が某マウスピース矯正やアンカースクリューなどのインストラクターをされていたり、セミナーの講師をされている先生方と一緒に矯正歯科治療を含めた包括的歯科治療の発表をさせてもらったりし、様々な矯正歯科治療を学べたことが今に生きていると思います。

勤務医時代にも勤務会員として歯科医師会に参加させてもらっていたこともあり、下都賀歯科医師会に入会させていただいてからも積極的に参加

するように心がけています。当初の目標は、皆様に自分の顔と名前を一日でも早く覚えていただけるようになることです。そのためにはまず先生方のお名前を覚え、仕事内容を理解し、いずれはこの歯科医師会の力になれるような存在になりたいと思っております。とても優しい先生方ばかりで、今では声をかけてくださる先生方も多くなり、誠にありがとうございます。先生方には、一般歯科治療などをお願いさせていただくことも多いと思いますが、自分自身も努力し成長し続けていきたいと考えていますので、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

早いもので気づけばもう歯科医師会に入会させていただいてから2年が経過し、この12月で開業してからも2年が経ちます。矯正歯科治療専門の歯科医院でありながら、なんとかここまでやってこられたのも先生方のお力添えがあったことで、心より感謝申し上げます。最近先生方の影響を受けゴルフを始めました。まだまだ下手ですが、楽しくやっております。嗜まれている先生方も多いと思いますが、こちらも機会がございましたらぜひご指導をお願いしたいです。



連載紀行

気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

フィリピン紀行

関根 潔

平成31年8月11日の朝、家族6人でフィリピンセブ島へ向かった。

成田に行くまでがすでに時間がかかり、フライトに4時間半もかかったので、ホテル到着が夜の8時になってしまった。
機内食が今までで最も不味かった。



昨日午前中は孫たちに付き合い、ホテルのプールで過ごした。
ここで5歳の孫の龍勢がちょっと目を離している間に溺れかけた。
昼少し前にタクシーでショッピングモールへ行き、食事とみやげ物、衣類、民芸品などを買った。

翌日も午前中はホテルのプールで過ごし、昼食にホテルの屋外レストランで食べたエビやイカなどの料理が旨かった。



午後、別のホテルへ移動。
こちらのほうがすべてにおいて豪華なのに食事が不味かった。
このホテルのプライベートビーチがとても広く美しく遠浅で、夥しい数の熱帯魚がパン屑を撒くと、ピラニアの様に集って来て、いくらでも手づかみで捕らえられる。
干潮の時間帯には、かなり遠浅になり、珊瑚の上部は水面から顔を出し、カクレクマノミのペアが何組も泳ぎ回っていた。
ウミウシやナマコ、貝など、あと

は図鑑で調べないとわからないような見た事のない生物のオンパレードで、しばし時間がたつのを忘れた。



夕食のホテルで中華はやはりエビが旨かった。

翌日もプライベートビーチで遊んだ後、昼食を兼ねてタクシーで別の街のショッピングモールへ出かけてのが失敗で、渋滞が酷く、モールで食事をしただけで時間が無くなり、買い物ができず、ほうほうの体（テイ）で逃げ帰ってきた。

また街の中はとても治安が悪いらしく、軽四輪を改造したミニバスは10人以上もの客をギュウギュウ詰めに乗せ、渋滞中、あちらこちらから物乞いの子供たちが寄って来て、窓ガラスを叩いた。

翌日は朝5時に起きて、家に帰ることに専念した。

帰りのフライトは今までになくひどく揺れて怖かった。

成田からは、いつもバスで佐野のアウトレットまで行き、後はタクシーだったが、自分が待合にショルダーバックを置き忘れて来たので、再び同じタクシーで戻ったら、バックは有ったのだが、タクシー料金が14,000円にもなってしまった。



平成6年4月に、添野先生が会長に選任されました。

会長就任時には、役員改選が行われますが、今までの役員選定の内訳は会長と同年代の先生、その下の中堅の先生で構成されるのが慣例でした。ところが、添野先生は40歳代の若手の先生を中心に新役員を構成しました。これは今までにない斬新な人事で、働き盛りの若い先生に現状を踏まえた新しい考え方で、下都賀歯科医師会を運営したいと考えたようです。

県歯に於いても、佐野の新井先生が新会長に選出され、それまでとは違う若手の理事を起用されていました。若手の新しい考え方が必要な時代に入ったのだろうと思われます。

添野先生に後から聞いた話では、役員人選が一番大変だったとのことで、人選に関しては誰からの指図もうけたくないとのことで、好きな酒も常連だった池田屋に行かず、家飲みをしていたそうです。因みに池田屋さんは、栃木市の旭町にある寿司屋さんで、一時池田屋に行けば下都賀歯科医師会のことは全てわかる、と言われたほど会員が良く利用していたお店です。



役員会は、和やかでしたが、出席者は自分の意見をしっかりと発言し真剣そのものでした。

しかし、何と言っても楽しかったのが役員会後の飲み会です。役員会・総会・新年会などでいつも利用していた鯉保に「どんぐり」という居酒屋があり、よく閉店まで飲んだものでした。

飲兵衛は一軒だけでは飲み足りないのが常で、いつの間にか、遅くまで営業しているデニーズが次の行きつけの場所になりました。深夜にも関わらず、チョコレートパフェなど甘いものを好む役員が多かったのには驚きました。

ある日の深夜2時過ぎに、デニーズで添野会長と確か木村理事がかつ井を注文した時には、他の全員が驚きを超えて呆れたこともありました。

支部の旅行は参加者が多く、和気あいあいと楽しい旅行をしました。名古屋に旅行した時に、宴会後飲みに行ってホテルに戻った会員は必ず会長に報告をするようにと冗談で言ったところ、参加者は真摯に受け止め報告したらしく、添野会長は夜中の2時過ぎまで寝られなかったそうです。

個別指導は誰にとっても避けたい指導ですが、この頃の個別指導は各支部で行われ、役員がその運営を担当していました。終了後は、次回もあまり厳しくならないようにと願いを込めて、今では禁止されている宴会をするのが通例でした。ある宴会の時、添野会長が厚労省の役人方に、アンタ達も誰かが不正をしないと困るんだよね、と言ったことがあり、傍に居た大沢先生（下都賀出身で県歯専務理事）が、会長は向こうで飲んだ方がいいんじゃないかと、慌てていたことがありました。

また厚労省の役員の方も、そういう先生はいない方が良いでしょう、あった場合には、出来るだけご家族が困らないように配慮しておりますと、答えていました。良い時代の1コマだったなあと記憶しています。

余談ですが、添野会長が就任する直前に、事務員の仕事を減らすため、会員の診療所全てにFAXを設置することがき

まりました。臨時総会でFAX設置を説明したのですが、今は亡くなった大平の清水先生が何で紙が送れるのだと、なかなか理解してくれませんでした。その時落合先生が、ラブレターが電話で送れるんだよと言ったところ、理由は良く解りませんが、それは便利だなあと突然納得されたことがありました。

その当時は全ての会員に平等にと言うことで、標榜名や診療時間にも規制がありました。

標榜名は自分の苗字のみ、遅くまで診療時間を設定しないように、日曜日の診療は認めない、また同様に看板や広告も規制されていました。今では、信じられない！と言うことになりましたが、当時はこれがどこの歯科医師会でもスタンダードな考え方でした。

今回は、石川会長時代のエピソードを書いてみたいと思います。